事業所名	にじっこらんど平和	支援プログラム	作成日	2025 年	2 月	27 日
------	-----------	---------	-----	--------	-----	------

		171 110	7.個性を十四に	-1 _ 1	71 ト ロナミュ	はける疲労を	. 日长 I 士=	<u> </u>		
	法人(事業所)理念	・一人ひとりの個性を大切にし、一人ひとりが輝ける療育を目指します。 人(事業所)理念 ・子どもが将来社会の一員として幸せに暮らせるよう、遊びやスポーツを通じてその土台作りのお手伝いをします。 ・保護者と関係機関(保育園・幼稚園・小学校)との連携を大切にします。							ます。	
	支援方針	・子ども達の多	・子ども達が安心してお互いの心通わせる場の提供。 ・子ども達の発達状況を把握しながら自立に向けて基本的な生活のルールを自然に体得できるよう個人個人の療育を心掛け、円滑な社会生活を営むことを目指して支援を行う。 ・様々な活動を通して、子ども達それぞれの持てる能力の向上に努める。							
	営業時間		<mark>9</mark> 時	00	分から	18 時	0 0	分まで	送迎実施の有無	あり なし
支援内容										
	健康・生活	・子どもの心身の状態を細かく観察し、健康な心と体を育て安全な生活を作り出せることができるよう支援する。 ・身の周りを清潔にし、食具の使い方、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 ・活動を通して、様々な遊びを通して学習でききるよう環境を整える。 ・障害の特性に配慮し、時間・空間が本人にわかりやすいよう構造化する。								
	運動・感覚	・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上のため、サーキットなどの運動活動を行う。 ・子どもの発達段階に合わせた手先の操作を行う課題を提供し、指先の巧緻性を高める支援を行う。 ・感覚の認知の特性(感覚過敏や鈍麻)を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。 ・視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。								
本人支援	認知・行動	・子ども達が様々な経験をしていく中で、環境や状況の理解に上手く繋がっていけるように支援し、それらを適切な判断や行動につなげていく。 ・形、色、音が変化する様子や、空間・時間等の概念の形成を図ることで、それを認知・行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。 ・数量、形の大きさ、重さ、色の違い等を習得するための支援を行う。 ・一人ひとりの認知特性を踏まえ、入ってくる情報が適切に処理されるよう支援を行う。また、こだわりに対する支援を行う。								
	言語コミュニケーション	・子どもが言葉にできない思いを、大人が言葉に表していく関わりを続けていく中で、思いを言葉にして伝えらるよう支援していく。 ・具体的な物事や体験と言葉の意味を結びつけることにより、より体系的な言語の習得や、自発的な発語につなげていくよう支援していく。 ・本人の特性に応じて読み書きの機会にも触れていく。 ・絵カードや写真などのコミュニケーションツールを活用しながら、意思の伝達ができるよう支援していく。								
	人間関係 社会性	・人との関係を意識し、職員との信頼関係を築く中で、そこを基盤として周囲の人と安定した関係を形成できるよう支援を行う。 ・子どもたちの安心して過ごせる場となるよう努め、自分の気持ちを表し、気持ちの折り合いをつけることができるよう支援していく。 ・遊びを通して他児の模倣をしたり、簡単なやり取りを通じて、徐々に社会性や対人関係を学んでいけるよう支援する。 ・大人が介入して関わる中で、自分の行動の理解や、気持ちや情緒の調整ができるよう支援していく。 ・ルールや手順をわかりやすく視覚的な支援を用いながら説明し、色々な遊びや集団活動に参加する経験を重ねていけるよう支援する。								
家族支援		・子どもに関す ・利用時の様子 ・子どもの課題	子を都度、連絡	格帳等でお	知らせをす	する。	0		移行支援	・保育所等との連携を定期的に行う。 ・ライフステージの切り替え(小学校入学など)将来的な以降に向けて の準備を行う。
	地域支援・地域連携	・保育園等との・保育園と個別・必要に応じて	川支援計画の作	F成等に伴	う会議を行	行う。			職員の質の向上	・事業所内の研修や勉強会を行う。 ・外部講習への参加を検討中 ・日々の支援の中で振り返りを行い、一人ひとりの支援の向上を図る。
・只今検討中(令和7年1月開所のため) 主な行事等										